

1. 研究主題

なかまと協働し、主体的に行動できる生徒の育成
～話し合い活動を軸として～

2. 研究の内容

本校の取組を通して生徒に身に付けさせたい力は、大きくは「主体」と「協働」の力である。それをさらに具体的に整理したのが右の図である。これは経済産業省がこれからの職場や社会の中で多様な人々とともに仕事を行っていく上で必要な基盤的能力として提唱している「社会人基礎力」を基にして細かく整理したものである。

「主体」と「協働」の力を身に付けさせるため、本校では特別活動を中心に据え、各教科や総合的な学習の時間、道徳を関連させ、学校生活の様々な場面を実践の場と捉え、実践に向けて話し合い活動を意図的に取り入れることにした。そこでは、実践をより充実させるために、PDCAサイクルを意識することと、なかまと協働し問題解決する体験となることを意識し、話し合い活動を工夫して行っている。この取組を3年間計画的に実践することで、「主体」と「協働」の力を高めたいと考えている。(本校では、この話し合い活動のことをアクションミーティングと呼び、問題解決の取組をアクションチャレンジと呼んでいる。)

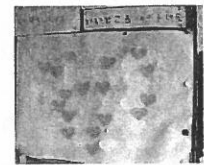
3. 実践の内容

(1) 「主体」と「協働」の発信

今年度の最初に行ったことは「主体と協働」を全校生に発信したことである。入学式の校長式辞、全校集会での話、学級や学校の掲示、ポートフォリオの振り返りワークシートなど様々な機会や場面を通して、本校での3年間の生活の中で、「主体」と「協働」の力を身に付けてほしいということを発信し続けている。

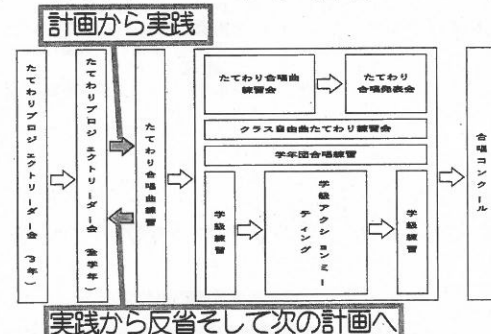
(2) 学級力向上プロジェクト

- 1 学級力アンケートをもとにレーダーチャートを作成
- 2 学級力向上アクションミーティング
- 3 アクションチャレンジ
- 4 「見える化」で評価



アクションミーティングで課題が共有され、アクションチャレンジでの活動が、より生徒主体の活動へとつながった。

(3) たてわりプロジェクト (合唱コンクール)

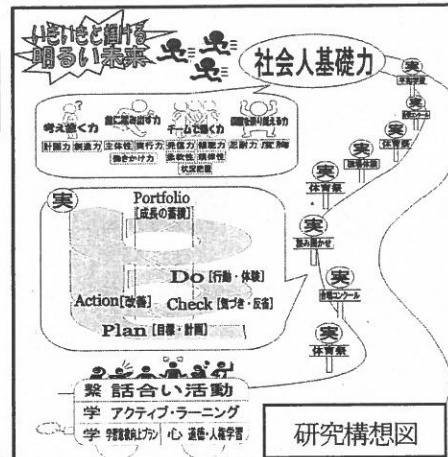
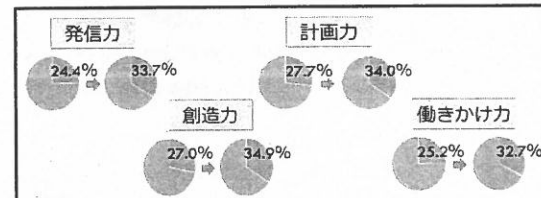


実践から反省そして次の計画へ
体育祭と合唱コンクールの取組で、生徒によるPDCAサイクルが確立された。

4. 研究の成果と課題

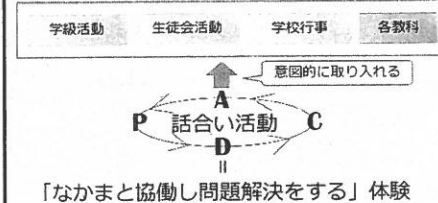
生徒に身に付けさせたい力について、生徒アンケートを実施しており、12の身に付けさせたい力のうち9つの項目が向上している。学校生活の様々な場面で、話し合い活動を問題解決に向けて計画し、実行していけるよう仕掛けをしてきた成果だといえる。この取組は特別活動を中心にやってきたが、各教科での実践の中でも生かされている。

しかし、「主体」と「協働」の力を育成していくことの日常化や、話し合ったことを「練り合う」、「折り合いをつける」といった実践については、まだ、不十分であり、今後改善していきたいと考えている。



話し合い活動

実践の場



「なかまと協働し問題解決をする」体験

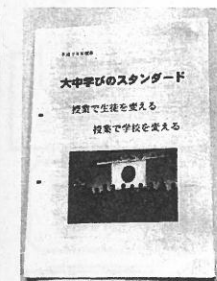
研究主題

一人ひとりが大切にされる温かい集団づくり

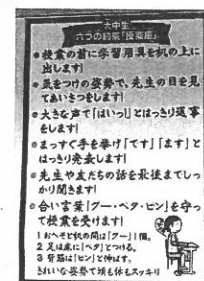
研究の具体

確かな学力プロジェクト

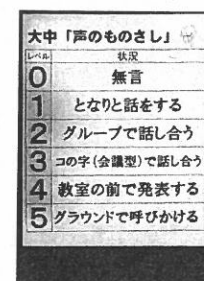
【学習規律の徹底】



大中学びのスタンダード



大中学生六つの約束: 授業編



大中学生のもののさし

【授業改善】

- ・座席を市松模様に
- ・班ごとに発表用のホワイトボードを常備
- ・4人組での話し合い活動
- ・全教員の公開授業 (小グループ、公開授業週間年3回)

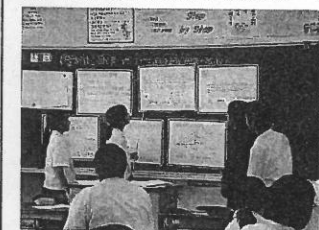
アクティブ・ラーニングの考え方を取り入れた学習活動

【問題解決的な学習】の設定

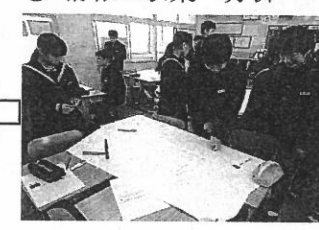
- ① 問題の認識 (生徒自身の課題 ② 予想とさせるような工夫をして)



④ 課題解決 (次の課題へ)



③ 情報の収集・分析

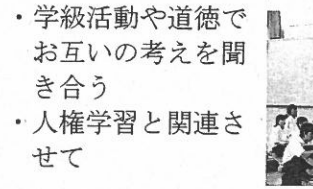


【学び合いの場】の設定

- ・「分からない」「できない」が言える雰囲気づくり



- ・学び合いの必然性を感じさせる工夫をする (ねらい、ゴールの明確化)

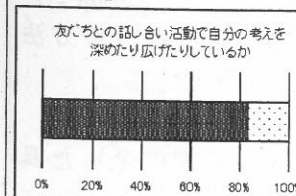


- ・学級活動や道徳で
お互いの考えを聞き合う
- ・人権学習と関連させて

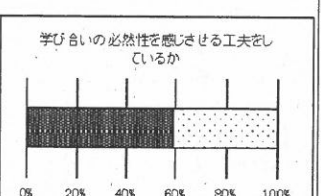
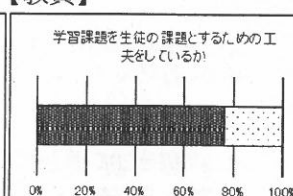
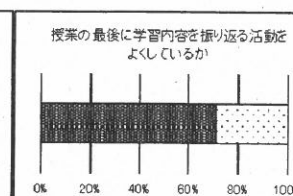
研究の検証及び改善の手立て

県学習状況調査や全国学力学習状況調査の項目を元に、学校独自の調査項目も加えて学期ごとにアンケートを実施している。現在のところ課題は、振り返りの活動の充実と、学び合いの必然性を感じさせる工夫のあり方で、教員間で協議しながら、進めていこうと考えている。

【生徒】



【教員】



[2017.10 アンケート結果より 黒色部分が肯定的にとらえている割合を示す]